



第2回 教育部会（令和4年7月29日開催）

委員からのご意見

議論のテーマ「西成区の子育て環境について」

- ・公園の数は多いが、開いていない公園や遊具が揃っていないこともあり、理由も含めて実態を把握してほしい。
- ・プレーパークは校区を越えて子どもが行くことができるように、交通手段など条件を整えることも必要ではないか。
- ・プレーパークにおいて、地域の人材や企業等を活用し、子どもと保護者を呼べるような企画を行えばどうか。
- ・子どもが喜んで外に出るような遊びを企画しなければ、室内で遊ぶ子どもが公園に集うことは難しい。
- ・就学前は保育所の入所がしやすい西成区に来るが、就学時に別の行政区に進学させたい出ていく親もいる。
- ・経済的な面など、家庭の生活基盤ができていないために子どもの環境を悪くしていることもある。
- ・郊外の方が地価が安く、家を建てたい若年層は市外へ流出しており、住環境もあわせて考える必要がある。
- ・たくさん子どもが集まっている松通公園・長橋公園は、公園の門が開いていて自由に行き来ができること、異年齢の子どもたちが多いこと、大きい木があることなど、違いがある。
- ・西成区のイメージアップのために、「大阪市みどりのまちづくり条例」と絡めて子育て環境と緑や生き物との共生をうたっていくこともよいのではないか。
- ・愛知県小牧市の「こまき祖父母手帳」などを参考に、祖父母に対する支援も必要ではないか。
- ・安心して子育てできる理由として、「近所づきあい、地域活動が盛ん」という意見が多く、区の取り組みへの理解が広がっていると考えられるので、一層官民連携して進められるとよい。
- ・幼稚園や保育園の保護者同士のつながりをきっかけにその後のつながりができている。
- ・子どもの居場所といっても、就学前、小学生、中学生など世代によってやることが違う。不登校の子や、外国人の方など、対象を絞って西成の魅力を作っていくとよいのではないか。
- ・子どもの居場所について、いきいき活動や公園に限らず、長橋地区にあるような町会の建物の中で活動できる場所があってもいいのではないか。
- ・小学生（特に低学年）はいきいきに行っている子が多く、パンク状態のところもある。
- ・大事な高校受験を控え、進学を意識する中学生を対象とした居場所があってもいいのではないか。
- ・非認知能力や、子どもの個性・能力を伸ばす教育など、学力の捉え方も見直す必要がある。
- ・子どもたちには、失敗を通して成長する経験が必要。プレーパークでそのような経験ができるとよい。
- ・人間は興味を持ったものには前向きに取り組めるので、工作など、いろんなことに子どもが魅力を感じて取り組んで成長できる場所があるとよい。
- ・子どもが興味を持っているいろんなことに取り組めるような場所が必要。プレーパークがあるが、それ以外にも地域の特性を踏まえたうえで拠点が、複数あるとよい。
- ・医療の面を、安心して子育てできない理由に挙げている人は少ない。
- ・北津守小学校では、ロシアとウクライナに関わる問題などの時事問題を取り上げた授業を行っている。情報収集を行い、このような良い取り組みを発信していったらどうか。

※今回の区政会議では、委員に身近なテーマで様々なご意見をいただきました。いただきましたご意見は、今後の区政の参考とさせていただきます。